

土岐 幸彦

Portable Machine Analyzer for Machine Diagnosis, "Model MK-310"

Katsuhiko Teramae

1 はじめに

設備診断には、ポータブル機器による定期的、間欠的な点検方法と、常時監視システムによる連続的なモニタリングとがある。前者



- (b) トランジェントレコーディング(記憶容量 4Kワード)
 - (c) リニアスペクトラム
 - (d) スペクトラムの三次元表示
 - (e) スペクトラムの大きいもの10個抽出表示
 - (f) 自動診断: バランス不良, ミスアラインメント・ベアリング不良, 歯車破損
 - (g) フィールドバランス
 - (h) スペクトラムの微積分
- (2) 入力部
 入力チャンネル: 1チャンネル
 3 1/2 インチ プリンター

外形寸法: 375(W)×280(D)×130(H)mm

重量: 約 6.5 kg

(9) 標準構成

本体 MK-310	1台	
ピックアップ PU-101	1個	ケーブル 5m
入力ケーブル	1本	ケーブル 1m
AC アダプタ	1個	
記録紙	5巻	
取扱説明書	1部	

電圧: AC (1Hz, -3dB)
 アッテネータレンジ:

Fig. 2 は、ベアリング損傷時の振動測定による診断例である。診断は、内蔵の自動診断ソフトにより、あらかじめ与えた回転速度